

講義名	経営学入門		
科目区分	専門基礎科目		
担当教員	柿沼 英樹		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

経営学の初学者を念頭に置いて、企業や経営についての基礎的知識や理論を解説する。具体的には、組織論、戦略論、マーケティング、会計などの、広い意味での「経営学」を構成する領域を取り上げ、教科書レベルの基本的な解説を行う。また、必要に応じて、若干の発展的内容や事例の紹介を加えていく。経営学の主要なことから体系立てて学ぶことで、自分なりの経営学の見取り図を持つこと、さらには専門的な学びへの意欲を高めることを目指す。

到達目標

- (1) 経営学の基礎的知識を習得している。
- (2) 企業経営に関するさまざまな現象を、学んだ知識を使って説明できる。
- (3) 経営学のさまざまな領域のなかから、より深く学びたい分野を見つけている。

提出課題

毎回の授業のなかで、その日の内容に関する小テストを実施する。
授業の内容と関連づけた論述を求めるとレポート課題を、2～3回程度提示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

授業回ごと的小テストについては、その日の授業時間内で解答の提示と補足解説を行う。
レポート課題については、提出後の授業回のなかで、全体向けにフィードバックを行う。

評価の基準

定期試験60%、授業回ごと的小テスト20%、レポート課題20%（詳細については講義内で指示する）
ただし、同一名称で開講されている他クラスに合わせて、評価の基準を改める可能性がある。その場合は、講義内で説明する。

履修にあたっての注意・助言他

他の受講生の迷惑となる行為（私語、飲食、講義途中の無断での入退出、ゲーム・動画の視聴など）は厳禁とし、違反者は厳重に対応する。場合によっては退出を命じられることもある。

教科書	.1からの経営学（第2版）	加護野忠男・吉村典久	碩学舎	2640	978450269610 7
-----	---------------	------------	-----	------	-------------------

プリント資料及び参考文献

講義資料は、授業回ごとにRyuka Portal上にアップロードするので、各自で持参すること。
参考文献
上林高雄・奥林康司・團素雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明（2018）『経験から学ぶ経営学入門 第2版』 有斐閣。
中川功一（2019）『ど素人でもわかる経営学の本』 翔泳社。

授業計画

- 第1回 経営学入門で学ぶこと：講義の全体像や進め方、評価方法など
- 第2回 企業経営の全体像：市場、経営資源、組織
- 第3回 経営学の全体像：経営学・商学・社会学、学際性
- 第4回 株式会社の仕組み：会社と株主、会社の諸機関、資金調達
- 第5回 日本の雇用制度：「三種の神器」論、ふたつの労働市場、雇用慣行の変化
- 第6回 競争戦略のマネジメント（1）：基本的な考え方
- 第7回 競争戦略のマネジメント（2）：違いをつくる3つの基本戦略
- 第8回 多角化戦略のマネジメント：多角化、M&A、戦略的提携
- 第9回 マーケティング：マーケティング・コンセプト、マーケティング・ミックス戦略、ブランド
- 第10回 国際化のマネジメント：国際化の動機、国境を越えることで生じる課題
- 第11回 マクロ組織のマネジメント：組織構造、職務設計
- 第12回 ミクロ組織のマネジメント：インセンティブ・システム、リーダーシップ
- 第13回 キャリアデザイン：デザインと開発、キャリア・アンカー、計画された偶発性
- 第14回 経営学の広がり：ファミリービジネス、非営利組織、サービス経営
- 第15回 まとめと補足解説：経営学の見取り図をつくる
定期試験

原則として、教科書の同じ章タイトルの部分に準拠して進める。例外的に、第1回は教科書の第1章、第4回は教科書の第3章、第5回は教科書の第4章を取り扱う。教科書の第5章は、第6回の授業のなかで触れる。また、第9回は、別途教科書に相当する資料を用意するので、それらを参照すること。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：教科書および講義資料を通読し、その授業回の主なトピック、キーワードを確認しておくこと、30分程度。
復習：講義資料には概略のみを記載しているため、教科書や参考文献を参照しながら詳細を補充すること。また、講義で学んだことが実際の企業経営や自身の職業生活にどのように役立つのかを考えること、合わせて90分程度。
これらのほか、レポート課題への取り組みに、長くかかる人で1課題あたり10時間程度を要する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

クリッカー（Respon）を使用して、毎回の授業において当該回の理解度チェックを兼ねた小テストを行う。
講義資料は、すべてオンラインで配信する。
レポート課題は、Microsoft Word またはその互換ソフトでの作成・提出を義務づける。

実務経験の有無及び活用

備考